

社会学部報

◇学部講演会および研究会

- 1992年5月6日(研究会例会)
講師 芝田 正夫 氏
社会学部 教授
「英国におけるマス・メディア教育—スターリング大学の事例—」
- 1992年6月2日(学部講演会)
講師 ミシェル・マフェゾリ 氏
パリ大学 教授
「現代フランス社会学について」
- 1992年6月3日(研究会例会)
講師 B. スマート 氏
オークランド大学 教授
社会学部 客員教授
「Sociology, Globalization and Post-Modernity」
- 1992年6月24日(研究会例会)
講師 三浦 耕吉郎 氏
社会学部 専任講師
「迷惑施設」建設問題と環境の定義
- 1992年7月1日(研究会例会)
講師 K. D. キース 氏
ネブラスカウェスレアン大学 教授
社会学部 客員教授
「Quality of Life and Developmental Disabilities」
- 1992年7月3日(学術講演会)
講師 セイモア M. リプセット 氏
ジョージメイソン大学 教授
社会学博士 アメリカ社会学会会長
「二つの北アメリカ国家—カナダとアメリカの比較社会学—」
- 1992年7月3日(研究会例会)
講師 セイモア M. リプセット 氏
ジョージメイソン大学 教授
社会学博士 アメリカ社会学会会長
「民主主義の条件」

◇海外出張

- 鳥越 皓之 教授
1992年3月26日から4月5日まで
「社会学実習」のため韓国へ
- 杉山 貞夫 教授
1992年4月14日から4月20日まで
「Hel Hendrick 博士主催の日米会議」に出席するためにカリフォルニアへ
- 川久保 美智子 助教授
1992年5月5日から5月10日まで
「中国人の意識に関するアンケート調査のデータ収集」のため中国へ
- 眞鍋 一史 教授
1992年5月20日から5月26日まで
「国際コミュニケーション学会でのシンポジウムで発題・討論」をするためアメリカへ
- 芝野 松次郎 教授
1992年6月3日から6月11日まで
「シカゴ大学100周年記念祭・講演会」に出席するためアメリカへ
- 對馬 路人 教授
1992年7月16日から7月21日まで
「在日韓国・朝鮮人社会のエスニシティに関する日韓共同研究打ち合せ」のため韓国へ
- 川久保 美智子 助教授
1992年7月26日から8月25日まで
「日中社員の意識比較調査」のため中国へ
- J. A. ジョイス 教授
1992年7月29日から9月29日まで
「Missionary Homeleave to visit Supporting Churches」のためアメリカへ
- 鳥越 皓之 教授
1992年8月8日から8月25日まで
「世界村落社会学で研究報告」をするためアメリカへ
- 半田 一吉 教授
1992年8月10日から8月22日まで
「小アジア方面のパウロの伝道旅行に関する新約聖書の史跡」を訪問するためイスラエル・トルコへ

- 武田 建 教授
1992年8月15日から8月24日まで
「関西学院高等部アメリカン・フットボール部ハワイ遠征」引率のためハワイへ
- 荒川 義子 教授
1992年8月20日から9月12日まで
「社会福祉教育の実状調査及び文献研究」を行うとともに、「精神障害者のコミュニティ・ケアに関する施設」を訪問するためアメリカへ
- 田中 國夫 教授
1992年8月23日から9月7日まで
「文化総部・関西学院交響楽団ヨーロッパ演奏旅行」に顧問として引率するため、ハンブルグ、アムステルダム他へ
- 船本 弘毅 教授
1992年8月28日から9月2日まで
「台湾タイヤル族媒源教会」に奉仕活動およびキリスト教事情見学のため台湾へ
- 遠藤 惣一 教授
1992年9月3日から9月17日まで
「中国人民大学との交換制度により同大学で講義等」を行うため中国へ
- 森川 甫 教授
1992年9月22から10月6日まで
「イエズス会古文書館で発見した *Annuae Litterae Prouvinciae Franciae Ad Christi* の解読と研究」をパリ・ソルボンヌ大学教授と共同で行うためフランスへ
- 眞鍋 一史 教授
1992年9月22日から9月25日まで
「日中イメージ調査」について中国人民大学沙 蓮香教授と共同研究打ち合せのため中国へ
- 春名 純人 教授
(著書)「RELIGION, SCIENCE AND PHILOSOPHY」Joint Studies on Christianity and Culture Kwansai Gakuin University. 1992
- 眞鍋 一史 教授
(分担執筆)「子供が健やかに生まれ育つための環境づくりに関する調査研究報告書」長寿社会研究所 1992.3
(分担執筆)「広告新時代への提言」日経広告研究所 1992.6
(分担執筆)「Marketing and Research under a 'New World Order」E.S.O.M.A.R. 1992.7
(分担執筆)「地球社会時代をどう捉えるか」ナカニシヤ出版 1992.9
- 高田 眞治 教授
(共編著)「新版 社会福祉原論」ミネルヴァ書房 1992.4
(共編著)「社会福祉論」川島書店 1992.4
(分担執筆)「社会福祉援助技術各論Ⅱ」中央法規出版 1992.
- 浅野 仁 教授
(著書)「高齢者福祉の実証的研究」川島書店 1992.8
- 對馬 路人 教授
(分担執筆)「いま宗教をどうとらえるか」海鳴社 1992.3
(共著)「近代天皇制と宗教的権威」同朋社 1992.4

◇会員の著書

- 武田 建 教授
(著書)「カウンセリングの進め方」誠信書房 1992.2
- 津金澤 聰廣 教授(加藤 春恵子 教授)
(共編著)「女性とメディア」世界思想社 1992.6

学 会 消 息

◇情報通信学会

情報通信学会の関西支部設立にともなって、つぎの2研究会が支部に常設されることになった。

「情報化の促進および阻害要因に関する研究会」
(主査：井上宏関西大学教授)

「情報発信戦略に関する研究会」(主査：眞鍋一史関西学院大学教授)

ここでは本学の眞鍋教授のかかわった研究会の成果についてのみ報告する。

第1回情報発信戦略に関する研究会が1991年11月22日(金)、電通大阪支社8階ホールにおいて開催され、眞鍋一史教授が「国際広告に見る日本からの情報発信—その現状と課題—」というテーマで研究発表を行った。

◇国際コミュニケーション学会 (International Communication Association)

国際コミュニケーション学会の年次大会が1992年5月21日から5月25日まで米国マイアミ(インターコンチネンタル・ホテル)で開催された。本学からは眞鍋一史教授が出席し、「エレクトロニック・メディアの時代における文化的アイデンティティ」と題するテーマ・セッションの部会で「日本の文化的アイデンティティとエレクトロニック・メディア」という内容の発題をするとともに、スコットランド、アメリカ、オランダのパネリストとのパネル・ディスカッションに参加した。

◇日本世論調査協会

日本世論調査協会研究大会が、1992年5月29日(金)、電通大阪支社12階大ホールにおいて開催され本学の眞鍋一史教授が「現代日本における価値の変容—パイロット・サーベイによる定点観測—」と題する研究発表を行った。なお、この研究発表は、安藤文四郎教授を代表者として同じ名称でなされた1989年度と1990年度の関西学院大学の共同研究にもとづくものであり、その第一次データ解析の結果の一部を報告する

ものであった。

◇関西社会学会

関西社会学会が1992年5月30日・31日の両日、奈良大学で開催され本学からも多数出席し役員選挙の結果、高坂健次教授が委員に選出された。

◇日本科学史学会

日本科学史学会が1992年5月30日・31日の両日、東北大学・仙台国際センターにおいて開催された。本学からは特別シンポジウムにおいて、高坂健次教授が「科学技術と民衆意識」のテーマで元濱涼一郎氏と共同発表した。

◇日本都市社会学会

日本都市社会学会が6月27日、28日の両日、江戸川大学(千葉県柏市)において開催された。今年では学会創設10周年に当たるところから「戦後日本の都市社会学の到達点と展開」と題するシンポジウムも開催された。

本学からは倉田和四生教授と山本剛郎教授の2名が出席した。なお、倉田和四生教授は「ラウンドテーブル」の司会を務めた。

◇国際社会学会 (International Sociological Association)

比較社会学研究部会および組織社会学研究部会の合同シンポジウムが、1992年7月3日から7日まで、東京(上智大学)と倉敷(国際学術交流センターと倉敷市立美術館)において開催された。この合同シンポジウムは本学名誉教授(吉備国際大学社会学部長)の萬成博先生を組織委員長として企画・実施されたものである。本学からは眞鍋一史教授がChanging Democratic Values and Institutionsのセッションで“Japanese Cultural Identity: Old Tradition, New Technology”の論文を発表した(7月5日)。また7月7日、Urban Development and Social Networkのセッションで司会をした。

高坂健次教授は7月7日、Plenary Sessionで司会をした。

川久保美智子助教授は7月3日、Culture and Commitmentのセッションで“A Comparative Study of Japanese and Chinese Employee Attitudes”の論文を発表した。また7月7日、Approaches to Analysisのセッションで司会をした。

が各国ごとに孤立して存在していることから、相互の連携の必要性が問われ、アジア農村社会学会準備組織（ARSWG）がアジア10カ国ほどからの出席者のもとに結成された。そして日本が議長国になることが要請され、鳥越教授が議長を務めることになった。

◇ESOMAR (European Society for Opinion and Marketing Research)

ヨーロッパ世論・マーケティング調査協会主催の国際会議が、日本マーケティング協会と米国広告調査財団の後援のもとに、1992年7月6日から8日まで、東京（京王プラザホテル）において開催された。

本学からは眞鍋一史教授が出席し、「広告、リサーチと新しい国際的メディア」のセッションで、東京大学研究員の Marc Röhl 氏との共同発表の形で、「アメリカ合衆国とドイツにおける日本の国際広告の分析—国際マーケティング戦略の視点からの比較分析—」と題する報告を行った。

◇国際平和研究学会

第14回国際平和研究学会が1992年7月27日から31日まで「変動する世界秩序の挑戦」という統一テーマのもとに、国立京都国際会館と立命館大学において開催された。

本学からはジェイムス・ジョイス教授と眞鍋一史教授が出席し、眞鍋教授は「平和と日本」の分科会で、「紛争の一要因としての文化的ナショナリズム」と題する発題を行い、討論に参加した。

◇国際農村社会学会

8月12日から16日までアメリカのペンシルバニア州立大学で国際農村社会学会が行われ、日本から25人の農村社会学者が出席した。本学からは鳥越皓之教授が研究報告および司会を行った。また、鳥越教授はインド代表に代わり、アジア選出の同学会理事に推挙された。アジア選出理事定員は3名で他にフィリピン、韓国から理事が出ている。

また同学会中に、アジア地区の農村社会学会

執筆者紹介 (掲載順)

鄭謝高谷田船倉荻牧	杭小巍賀川	生彬苗	中国人民大学副学長 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程前期課程 神戸アジア都市情報センター研究員 国連アジア太平洋経済社会委員会 社会開発部コンサルタント	安和守茂 平尾桂 福永英彦 松岡克尚 立木茂雄 眞鍋一史 中野秀一郎 紺田千登史 大道安次郎	関西学院大学大学院 社会学研究科研究員 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程前期課程 旭川荘厚生専門学院専任講師 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程 関西学院大学助教授 関西学院大学教授 関西学院大学教授 関西学院大学教授 関西学院大学大学院 社会学研究科研究員
-----------	-------	-----	--	--	--

社会学部研究会会員

會長	佐々木 薫						
運営委員	中野秀一郎 鳥越皓之	春名純人 芝野松次郎	西山美瑛子 正村俊之				
会計監査書記	中山慶一郎 岡部衛一郎	宮田満雄					
名誉会員	本出祐之 西尾朗 嶋田津矢子 清水盛光	小関藤一郎 岡村重夫 定平元四良 栃原知雄	萬成家博 領家穰方 杉原				
	(A B C 順)						
普通会員	田中 國夫 半田 一吉 遠藤 惣一 J.A. ジョイス 紺田 千登史 山路 勝彦 荒川 義子 高坂 健次 對馬 路人 立木 茂雄 荻野 昌弘	倉田和四生 武田建甫 森川甫毅 船本弘毅 村川満 山本剛郎 安藤文四郎 中西良夫 芝田正夫 A. ブレイディ 三浦耕吉郎	杉山貞夫 牧正英夫 張光夫 津金澤聰廣 眞鍋一史 高田眞治 浅野仁明 石川明 宮原浩二郎 川久保美智子 谷直子				

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章 会 計

第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 19,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間1,600円とする。

付 則

第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
 - ①原著
 - ②研究ノート
 - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
 - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
 - ⑤その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
 - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
 - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
 - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版(トレース、写植代)は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
 - ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

人影も疎らな炎天下のキャンパス。蝉の声だけが四方の空間を埋めつくしています。まさに、盛夏。『社会学部紀要』第66号（本誌）が皆様のお手元に届く頃には、再び学生達の賑やかなお喋りがこの蝉の声にとって代わっているでしょう。

さて、この半年、社会学部研究会は例年になく活発に研究会例会を開催、特に春学期の二人の客員教授 Barry Smart 氏と Kenneth D. Keith 氏にはそれぞれ専門の領域に関して蘊蓄を傾けたご報告をいただきました。7月の特別例会には、時宜にかなった話題（Conditions for Democracy、S. M. Lipset 教授）をえて、法学部からも若手の政治学者が何人か参加してくださいました。

本誌（66号）について申しますと、まず巻頭には、社会学部創立30周年記念行事において講演された中国人民大学副学長 鄭 杭生先生のオリジナルペーパーを日本語に翻訳して掲載しました。本大学院の中国人留学生 高君と謝君の訳文に私が手を加えていますが、いささか中国風の日本語が残っていて読みづらく思われるかも知れません。お許してください。

それから、本号に初めて、昨年度から創設された社会学部最優秀卒業論文賞（通称 安田賞）を受賞した論文（の要旨）を掲載しました。今回は立木茂雄助教授の指導で書かれた3人の学生（曾田邦子、高瀬さおり、中安裕子）の労作で、中学生の無気力を家族関係との関連で分析したユニークな研究です。理論的枠組と実証的調査をうまく統合することは〈玄人〉のわれわれでも大いに苦勞するところですが、それが立派に出来ているのです。今後、毎年度の受賞論文を紹介していきたいと思っておりますが、在校生達に良い意味でのアカデミックな刺激を与えてくれることを期待しています。

最後に「資料」としたものは、故大道安次郎名誉教授の御遺稿で、倉田和四生教授の御尽力で今回陽の目を見ることになったものです。

編集事務のルーチンは、例によって社会学部事務室の染谷廸子さんに、それに速水幸一事務主任にも大変お世話になりました。お二人には、研究会運営委員会を代表して感謝の意を表したいと思えます。（中野）

1992年10月1日 印刷

1992年10月10日 発行

編集発行人 佐々木 薫

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)⁽⁵³⁾6111(代表)
(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN
SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 66

October 1992

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
